

大型専用検査装置を刷新 現行機老朽化と増産に対処

お客様は外資系の医薬品メーカー様で米国から輸入するアンプル薬を日本の製薬基準に沿って全量検査していました。しかし、現行検査機の老朽化と輸入量増加に伴い今後の自動検査継続が懸念されていました。

お客様のプロフィール

会社名
医薬品物流倉庫様

従業員数
約250人

業種
医薬品の製造販売・輸出入

所在地
全国1倉庫

医療医薬

倉庫

導入前の課題

- 検査装置を刷新したいが現行ベンダーが不在
- 輸入量増加により現行以上の検査速度が必要
- 目視検査で補完する検査もあり労務費も増大

選んだ理由

- 当社が希望するカメラ(キヤン)の実績が豊富
- 現行の検査装置を上回る検査速度
- 医薬品業界のバリデーション(適格性検査)に対応

導入の効果

- 輸入量が増加しても自動検査が可能となった
- 目視検査が廃止でき、労務費を削減できた
- 現行装置の退役により保守費も削減できた



ワークと検査視野

- 搬送方式
ローコンベア、ホッパー、チェーン搬送
- 画像検査
25項目(異物,欠陥,液撥ね,気泡等)
- 検査速度
600本/分 (0.1秒/本)
現行検査装置は300~400本/分



現行検査装置と比較して約2倍の検査速度を実現
1-サー指定カメラの性能を最大に引き出し検査機能も強化

ポイント

- a ▶ 自動車向け装置の実績を活かした高速搬送機構
- b ▶ 全13台のカメラを連動させた高度な画像認識技術
- c ▶ バリデーション(適格性検査)に対応したフル投入推進体制

導入費用・納期

- ・装置本体製作費 約14,000万円 ※工事費は除く
- ・工期：約10カ月